

高く泳げや 鯉のぼり！

校長 松本 雅史

令和7年度も早くも1ヶ月が経とうとしています。ツツジが早くも満開です。澄み渡る大空を、今年も鯉のぼりが悠々と泳いでいます。

♪ 葦（いらか）の波と雲の波、
重なる波の中空（なかぞら）を、
橘（たちばな）かおる朝風に、
高く泳ぐや、鯉のぼり♪

文部省唱歌の「こいのぼり」です。小学校5年生音楽の教材にもなっています。鯉のぼりが、今のような、真鯉（黒）、緋鯉（赤）、子鯉（青や緑、黄）のスタイルになったのは、1964年の東京オリンピックあたり（五輪の5色を反映）からで、それまでは黒が父、緋鯉が子のイメージだったといえます。いずれにしても、我が子の健やかな成長への強き祈りが込められたものであることに変わりはありません。

さて、先ほどの「こいのぼり」には続きがあります。

♪ 百瀬（ももせ）の滝を登りなば、
忽（たちま）ち竜になりぬべき、
わが身に似よや男子（おのこご）と、
空に躍るや鯉のぼり♪

「竜門」と呼ばれる滝を登り切った鯉は、竜となって天に昇るとの

故事があります。向かい風を受けて力強く泳ぐこいのぼりのように、自分から「チャレンジ」の向かい風を起こして、困難な状況であっても自分を磨いていく、そんな逞しい八小のこども達であってほしいと願います。

昨年度から本校は、「夢」をテーマに教育活動をすすめてまいりました。これは、こどもの願いや思いをこども自身の手で実現していく学びです。それを教科・領域を問わず、全ての教育活動で展開していくという挑戦です。こども主体の学習をすすめる上で大切なのは、「なんだろう!」「どうして?」「やってみたい!」と、こどもの学びに火が付くことです。そして、そこでのポイントは、火がついたこどもの学びを支え、リードする教師の在り方です。

4月は、6年生の体育の授業で、こどもが主体的に学びに向かい、創り出す実践が発表されました。丸井国分寺店さんや、地元のお団子屋さん、レストランなどと連携しての商品開発といった学びもすすめています。そこには、「何としても小平野菜の魅力を多くの人に発信したい」という強いこどもたちの願いがあります。常に、「何のため」という目的を見定めながら、精一杯の知恵を絞り、仲間と力を合わせやり遂げようと努める、その学びに向かう姿勢に限りない頼もしさを感じます。こうした例にとどまらず、こどもの学びに火を付け、生き生きとした学習場面を日常的に創り出すには、何よりも教師自身の向上と成長が不可欠です。こどもだけでなく、私たち教職員も磨き合い高め合うチームとして尽力してまいります。どうぞよろしくお願いたします。